

問1	家計などの資金の出し手から預金としてお金を預かり、その資金を企業などの借り手に貸し出す仕組みを、銀行などの金融機関が仲立ち（媒介）することから何と呼びますか。（2026年 山梨県公立入試 類似）			
	1. 公開市場操作	2. 財政投融资	3. 間接金融	4. 直接金融
問2	景気が好転して失業率が低下している状況において、日本銀行が市場の通貨量を調節するために行う「売りオペレーション」の説明として適切なものはどれですか。（2020年 島根県公立入試 類似）			
	1. 日本銀行が保有する国債を民間の金融機関に売り、市場の通貨量を減らす。	2. 日本銀行が企業に対して直接国債を売り、設備投資を抑制させる。	3. 日本銀行が民間の金融機関から国債を買い取り、市場の通貨量を増やす。	4. 日本銀行が政府から直接国債を買い取り、公共事業の予算を増やす。
問3	不況期において、日本銀行が景気を刺激するために行う金融政策の一つに「買いオペレーション」があります。この政策において、日本銀行が市中銀行に対して行う具体的な行動として正しいものはどれですか。（2015年 富山県公立入試 類似）			
	1. 市中銀行に対して国債を売り出す	2. 市中銀行からの預金準備率を引き上げる	3. 市中銀行への貸出金利を引き上げる	4. 市中銀行が保有する国債を買い入れる
問4	好景気（好況）の局面などで、社会全体の需要が供給を上回り、モノやサービスの価格が全体的に継続して上昇する現象を何といいますか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）			
	1. デフレーション	2. インフレーション	3. スタグフレーション	4. 円高
問5	日本銀行が「銀行の銀行」としての役割を果たす具体的な仕組みについて、最も適切な説明を選びなさい。（2017年 長崎県公立入試 類似）			
	1. 税金の納付を受け付けたり、公共事業の費用を政府に代わって支払ったりする仕組み。	2. 日本で唯一の紙幣（日本銀行券）を発行し、市場に流通する貨幣の量を調整する仕組み。	3. 個人や企業から直接預金を集め、それを原資として住宅ローンなどの貸し出しを行う仕組み。	4. 一般の銀行の資金が不足した際に融資を行い、金融システムの混乱や連鎖的な倒産を防ぐ仕組み。
問6	景気変動のモデル図において、経済活動が停滞し、景気の「谷」にあたる時期に日本銀行が実施する金融政策について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 奈良県公立入試 類似）			
	1. 日本銀行が紙幣の発行を停止し、民間の経済活動を制限する政策	2. 政府が所得税や法人税の税率を引き上げ、景気の過熱を抑制する政策	3. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い入れ、市場に流通する通貨量を増やす政策	4. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に流通する通貨量を減らす政策
問7	日本の金融機関の役割について述べた次の説明のうち、特定の地域を主な営業基盤とし、家計から集めた預金を地元の企業などに融資することで地域経済の活性化を支える民間銀行として、最も適切な名称を答えなさい。（2016年 愛媛県公立入試 類似）			
	1. 証券会社	2. 日本銀行	3. 中央銀行	4. 地方銀行
問8	日本銀行が担う「発券銀行」としての役割と、政府や国会の役割を区別したとき、日本銀行の業務として正しい説明はどれですか。（2017年 岩手県公立入試 類似）			
	1. 国会において、国の収入と支出の計画である予算を審議し議決する	2. 電気やガスなどの公共料金の価格を決定し、国民生活の混乱を防ぐ	3. わが国唯一の中央銀行として、日本銀行券を発行し流通量を管理する	4. 道路や橋、公園などの社会資本を直接供給し、経済基盤を整備する
問9	景気が過熱して物価が上がり続けるインフレーションの懸念があるとき、日本銀行が行う金融政策とその目的についての説明として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2020年 岐阜県公立入試 類似）			
	1. 金利を下げることで、市場に出回る貨幣の量を増やし、経済活動をさらに刺激する。	2. 金利を上げることで、企業や個人が資金を借りにくくし、景気を抑制して物価の安定を図る。	3. 公共事業を削減することで、政府の支出を抑え、市場の資金流通量を直接減少させる。	4. 増税を行うことで、国民の可処分所得を減らし、消費行動を直接抑えることで物価の上昇を止める。
問10	あるスーパーマーケットの店長が、新店舗の出店費用を賄うために「銀行からの借り入れに頼らず、株式や債券を発行して投資家に買ってもらうことで資金を準備した」と述べています。この資金調達の方法に関する説明として、最も適切なものはどれですか。（2019年 山口県公立入試 類似）			
	1. 企業が事業活動で得た利益を内部に蓄積し、そこから必要な経費を捻出する仕組みである。	2. 銀行が預金者から集めた資金を、銀行側の判断と責任で企業に融資する仕組みである。	3. 資金の出し手である投資家が、株式などを購入することで企業に直接資金を供給する仕組みである。	4. 日本銀行が景気を調整するために、市中の金融機関と国債などを売買する仕組みである。
問11	キャッシュレス決済の仕組みと通貨の性質について述べた次の文のうち、最も適切なものはどれか。（2025年 青森県公立入試 類似）			
	1. クレジットカード決済などは、銀行にある預金を通貨のように機能させて支払いを行っている。	2. キャッシュレス決済で使われる電子データは、日本銀行が発行する現金通貨と同じ法的強制力を持つ。	3. 銀行の預金は、利子を得るための貯蓄手段であり、支払い手段としての通貨の性質は持たない。	4. キャッシュレス決済が普及すると、通貨の持つ「交換手段」としての機能は失われることになる。
問12	不景気の際に日本銀行が行う金融政策のうち、一般の銀行から国債などを買い取る「買いオペレーション」の目的と仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2023年 兵庫県公立入試 類似）			
	1. 銀行が保有する資金量を増やし、預金金利を上げることで、個人の貯蓄を促進する。	2. 銀行が保有する資金量を増やし、貸し出し金利を下げることで、企業への融資を促す。	3. 銀行が保有する資金量を減らし、市場の通貨流通量を制限することで、物価の上昇を抑える。	4. 銀行が保有する資金量を減らし、貸し出し金利を上げることで、過剰な消費を抑える。
問13	日本銀行が公開市場操作において、民間金融機関から国債を買い入れる政策を実施した場合、その後の経済への影響として期待される因果関係の説明として正しいものはどれですか。（2024年 香川県公立入試 類似）			
	1. 市場の通貨量が増えることで、民間の利子率（金利）が上昇し、国民の預金意欲が高まる。	2. 市場の通貨量が増えることで、民間の利子率（金利）が低下し、企業の設備投資が活発になる。	3. 市場の通貨量が減ることで、物価の上昇が抑えられ、企業の過剰な在庫投資が抑制される。	4. 市場の通貨量が減ることで、通貨の価値が上がり、輸入品の価格が下がることで消費が拡大する。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 間接金融	資金の出し手（家計）と借り手（企業）の間に銀行などの金融機関が入り、預金という形で集めた資金を貸し出す仕組みを間接金融といいます。貸し手と借り手が直接取引を行わないため、この名称と呼ばれます。
問2	答え 1 日本銀行が保有する国債を民間の金融機関に売り、市場の通貨量を減らす。	景気が過熱している好況期には、物価の上昇を抑えるために市場に出回るお金の量を減らす必要があります。日本銀行が保有している国債を民間の金融機関に売却すると、その代金が民間から日本銀行へ流れるため、結果として市場の通貨量が減少します。これを「売りオペレーション」と呼びます。
問3	答え 4 市中銀行が保有する国債を買い入れる	日本銀行が市中銀行から国債を買い入れることで、その代金として日本銀行から市中銀行へ通貨が支払われます。これにより市場に流通する通貨量が増加し、銀行が企業や個人へ融資を行いやすくなるため、景気を向上させる効果が期待されます。対照的に、国債を売る行為は「売りオペレーション」と呼ばれ、景気が過熱している際に行われます。
問4	答え 2 インフレーション	好景気のときには人々の購買意欲が高まり、商品に対する需要が供給を上回ること、物価が継続的に上昇します。この現象をカタカナでインフレーションと呼びます。これに対し、不景気の時に物価が下がり続ける現象はデフレーションと呼ばれ、区別して理解する必要があります。
問5	答え 4 一般の銀行の資金が不足した際に融資を行い、金融システムの混乱や連鎖的な倒産を防ぐ仕組み。	民間銀行は、預金者からの払い戻しが重なるなどして一時的に手元の資金が不足することがあります。このような際、日本銀行が「最後の貸し手」として民間銀行に資金を供給することで、決済が滞るのを防ぎ、預金者が安心して銀行を利用できる環境を維持しています。これに対して、政府の資金を扱うのは「政府の銀行」としての役割です。
問6	答え 3 日本銀行が一般の銀行から国債を買い入れ、市場に流通する通貨量を増やす政策	景気が落ち込んでいる時期（不景気）には、日本銀行は市場の通貨量を増やすことで景気の回復を図ります。具体的には、日本銀行が一般の民間銀行が保有している国債を買い上げる「買いオペレーション」を実施します。これにより、銀行が持つ資金が増え、企業や個人への貸し出しが促進されることで、経済活動の活性化を狙います。
問7	答え 4 地方銀行	地方銀行は、特定の都道府県や地域を中心に営業活動を行う民間金融機関です。地域住民（家計）からの預金を、その地域の企業に貸し出す（融資する）という「金融仲介機能」を果たすことで、地元の産業を支え、地域経済の循環を促す役割を担っています。
問8	答え 3 わが国唯一の中央銀行として、日本銀行券を発行し流通量を管理する	日本銀行は「中央銀行」として、通貨（日本銀行券）の発行と管理を通じて経済の安定を図ります。これに対し、予算の議決は国会が行い、公共料金の認可や社会資本（インフラ）の整備は、主に政府や地方公共団体が政策として行う業務であるため、中央銀行の役割とは異なります。
問9	答え 2 金利を上げることで、企業や個人が資金を借りにくくし、景気を抑制して物価の安定を図る。	景気が良すぎて物価が急激に上昇する（好況・インフレの）とき、日本銀行は景気の行き過ぎを抑えるために金利を上げる操作を行います。金利が上がると、企業は資金を借りるコストが高くなるため、新たな生産活動や設備投資を控えるようになります。これにより、市場に流通するお金の量が抑えられ、需要が落ち着くことで、物価の安定へとつながります。なお、増税や公共事業の調整は政府が行う「財政政策」であり、日本銀行が行う「金融政策」とは区別する必要があります。
問10	答え 3 資金の出し手である投資家が、株式などを購入することで企業に直接資金を供給する仕組みである。	店長が述べた手法は、金融機関という仲介者を介さずに資金を調達する直接金融に該当します。この仕組みでは、投資家が購入した株式や債券の代金が、証券会社などを通じて直接企業に届きます。一方、銀行が間に入って預金を貸し付ける形態は間接金融と呼ばれ、リスクの所在や資金の流れが異なります。
問11	答え 1 クレジットカード決済などは、銀行にある預金を通貨のように機能させて支払いを行っている。	通貨には、価値を測る「尺度」、支払いに使う「交換手段」、価値を保存する「貯蔵」の機能がある。銀行にある預金は、単に貯蓄されるだけでなく、キャッシュレス決済などを通じて口座振替で支払いに利用されるため、「預金通貨」として交換手段の役割も果たしている。
問12	答え 2 銀行が保有する資金量を増やし、貸し出し金利を下げることで、企業への融資を促す。	景気が停滞しているとき、日本銀行は市場に流通するお金の量を増やすために「買いオペレーション」を行います。日本銀行が民間の銀行から国債などを買い取ることで、銀行側が自由に使える資金が増えます。その結果、銀行は企業などへお金を貸し出しやすくなり、金利が低下することで経済活動を刺激する効果があります。
問13	答え 2 市場の通貨量が増えることで、民間の利子率（金利）が低下し、企業の設備投資が活発になる。	日本銀行が国債を買い入れると、民間金融機関が自由に使える資金が増加します。これにより、市場では資金の供給が需要を上回る形となり、利子率（金利）が低下します。金利が下がると、企業は低い利息負担で銀行から資金を借りやすくなるため、工場を建てたり機械を買ったりする設備投資が促進され、景気を回復させる効果が期待されます。